

Title	癌と人 第33号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 33
Issue Date	2006-05-10
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/23731
DOI	
rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

◎ 題 字 ◎

財団法人 大阪癌研究会
前理事長 千代賢治



* 表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は川俣順一大阪大学名誉教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病氣(癌)の格好が蟹に似ていたのでもそれを呼び名とした。

今日、欧米では日本という癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス(蟹)という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。

・ごあいさつ	1
松本圭史	
・日本では何故がんが著増したか	2
松本圭史	
・分子標的治療薬の開発	5
田口鐵男	
・癌を抑制する身体運動	8
岩永剛	
・「プロテアゾーム阻害剤」雑感	
—偶然ということ—	13
辻仲利政	
・外来化学療法	17
金昇晋・野口眞三郎	
・細胞周期の理解から発癌メカニズムを 探る	19
吉田健一	
・染色体を安定に維持する監視機構	20
中西真	
・アレルギーを引き起こす細胞と 腫瘍との関係	21
森井英一	
・血管内皮細胞における癌抑制遺伝子 PTEN	22
濱田浩一	
・裏から攻める	24
難波大輔	
・アミノ酸輸送体と悪性腫瘍	25
金井好克	
・転写メディエーターを標的にした治療の ための基礎的解析	26
伊藤光宏	
・細胞分裂と抗がん剤感受性	28
時野隆至	
・骨髄異形成症候群を引き起こす遺伝子 異常の解明	29
原田浩徳	
・DNA切断センサーDNA-PKの性質と 機能に関する研究 —その成果は癌診断・ 治療にいかにかかせるか?—	31
松本義久	
・糞便中の mRNA を標的にした大腸癌 診断法の確立	32
金岡繁	
・新しいがん治療をめざして—筑波大学での 養子免疫遺伝子細胞治療—	34
小野寺雅史	
・平成16年度事業報告	36
・平成16年度収支計算書等	43
・平成17年度事業計画書	48
・平成17年度収支予算書	49
・平成17年度寄附者御芳名	50
・財団法人大阪癌研究会寄附行為	55
・(財)大阪癌研究会役員・評議員・賛助会員名簿	58